

Oita Pco Letter

No.25

2021 July

WHY ARE YOU HERE?



WHY ARE YOU HERE?



僕らがここに立つ理由

やまなか まゆこ 山中葉祐子2等海曹の場合

人生における大きな喜びは、君にはできないと世間がいうことをやることだ。
ウォルター・バジョット

今では女性に対しても大きく門戸を開いている自衛隊であるが、やはり昔前は、その門は狭かった。そのような中でも、女性隊員はそれぞれの道を切り開き、今では「女性パイロット」や「女性艦長」などとしても活躍している。

今回、話を聞かせてくれた山中2曹もまた、自らの意思と情熱とで、道を切り開いてきた一人と言えるのかもしれない。現在は自衛隊大分地方協力本部の募集広報官であるが、海上自衛隊では初となる「女性ハンドラー」という経歴を持っている。彼女は、どんな理由で自衛隊という場所を目指したのか。そして、どんな風景を見てきたのか。

先生に言われた一言

「お前には無理だ」

今、自分がここにいるのは、先生の、あの一言があったからだと思えます。

高校三年の時の私は、進学よりも就職したいと考えており、「海上自衛隊」という進路を希望していました。「安定した仕事に就きたい」というまともな理由もありましたが、その他は「海外への憧れ」とか、「制服がカッコいい」、「地元ではレア」とか、全体的には「なんとなく」の域を出ない理由の方が多かったと思います。

そして迎えた三者面談で担任に「お前には無理だ」とハッキリ言われました。

当時はまだ女性の海上自衛官の枠も少なかったですし、そういうところも考えてくれた上での言葉だったのかもと思いますが、でも、それで「うん、スリッパ」が入ってしまったんです。「無理だ」と言われたことで逆に燃えました(笑)。その言葉を「見返したい」という気持ちと熱とで試験を乗り越えた感じでした。

世界を回る

海上自衛隊では、バラエティ豊かな仕事をしていたと思います。艦船では電子機器の整備、陸上隊では整備以外に、書類作成等デスクワークもやっていました。

入隊4年目の時、遠洋練習航海に従事する機会があり、半年かけて10か国13寄港地を周りました。もちろん仕事なので、各々の寄港地では訓練や艦上体育等をしながらいきました。フランスでは、5年に1回開かれる「アラマタフェスティバル」という船の祭典に参加し、各国の海軍や帆船乗りと交流することができました。一番嬉しかったのは休養日です。入港したら2〜5泊して、当直以外は全て休養日になるんです。ビラズニード、ルーブル美術館、デュミッド等々訪れ、いろいろの見聞を広める事が出来た。いつでも各国のマクドナルドも制覇してたり(笑)。海上自衛隊を目指した理由の一つだった「海外への憧れ」は、こうして、わりと段階で形になりました。日本に戻ったら、お金が



Mayuko Yamanaoka

警備犬と共に

実家では常に動物を飼っていたので、自衛隊を目指す前は、動物関係の仕事を目指していた時期がありました。その夢は、諸事情により断念したのですが、まさか自衛隊の中で、そういう動物関係の仕事ができるようになるとは思いませんでした。

ひよん(犬)のことから、海上自衛隊に「警備犬」がいること、その犬を訓練すること「ハンドラー」という仕があることを知ったんです。その時から、警備犬がいる部隊で勤務したい」と熱望するようになり、とうとう自衛隊犬の訓練に従事できたのは、海上自衛隊であって警備隊、航空自衛隊であれば各基地の警備職種に就く一部の自衛官だけです。本来であれば職種が違っ



私が警備犬と関わる事は出来なかったのですが、私が配属された部隊でハンドラーの後継者が不足していたため、電子整備員の仕事と兼務、ハンドラーの仕事に携わる事が出来るようになったんです。タイミング的にラッキーな部分もあったとは思いますが、ずっと「ハンドラーがやりたいです」と周囲にアピールを続けていて良かったです(笑)。

ハンドラーとしての五年半は本当に貴重な経験させてもらったと思います。災害時には、能力の高い警備犬を救助犬として運用し、災害派遣活動に従事

広報官として

現在は、そういった経験を活かして、自衛隊の魅力を伝える「広報官」という仕事をしています。駆動しながら様々な仕事に携われるのは、自衛隊な

らではだたと思えますね。広報官になってからは、業種や年代、性別を問わず、たくさんの人と関われるようになって、毎日とても良い刺激をいただいています。今、この瞬間も、それぞれの場所から様々な仕事を日本を守っています。「なんとなく」でしかない理由と、「見返したい」という反発心が入った自衛隊生が、大切な人たちが笑って過ごせる「当たり前」の世界を守るという仕事に、今は誇りとやりがいを感じています。

失敗を恐れずに
高校三年生になって、いきなり人生の岐路に立たれた戸惑う人は多いと思います。思い返せば、私も学生の頃は部活、勉強、友達、恋人のごとで精いっぱいでした。その時点で、はっきりと人生の目標を見つけているような人ってごくわずかですが、私みたいに「なんとなく」だったり、「親や先生に勧められたから」、「友達が進学するかから自分も」とか、そういった理由で進路を決める人も結構いるんじゃないでしょうか。でも、それもそれでいいと

思います。流されてみるのもいいですし、反発するものもあります。結果的に遠回りになる事もあるかもしれないですが、そういう遠回りだったとしても、しか経験できない何かがあるはずだと思います。私もなんかないで失敗がなかったわけはないですが、その失敗も「経験値」として活かせるようになっていきました。「転んだ人を笑ってはいけない。彼は歩こうとしたのだ」という言葉もありません。感謝を忘れず、信念を持ち続けられませんか。その時にチャンスをつかむた

めには、勇氣と自信が必要になると思っています。たとえ失敗したとしても、なにして失敗したのかを自分で理解できていれば、次はその部分を改善して挑戦することが出来ます。そうやって自分の中で積み上げたものに對する自信が、いつか背中を押してくれる気にもなるんじゃないでしょうか。私自身も、そういう時に、失敗を恐れずに挑戦できる自分あり続けたいです。

私の勤務地 佐伯地域事務所

九州一という広さを持つ佐伯市は、自然・食物の宝庫です。地域の方は本当に人情味があります。そんな方々に支えられ、日々楽しく広報活動をしています。今では私の第二の故郷だと思っくらい佐伯が大好きになりました。

自衛隊に興味がある、自分に合う仕事かわからない等ありましたら、まずは私たち広報官になんでも質問して下さい。「こんな仕事もあったの?」とびっくりしますよ。



募集、イベント、活動状況等、大分地本の最新情報は

大分地本



陸・海・空 自衛官募集

※記載している情報は全て取材時のものです。